

ごとう通信

第125号

平成23年5月1日

控えめなお花見シーズンを終え、

新緑の季節へと移ってきました。いつもと何も変わらない緑がとてもまぶしく感じます。被災地の方のことを思うとウキウキした気分にはなりません。被災地の方のことは、葉が現実の目標に変わってきたようにも思います。まずは自分たちに来ることから始めましょう。

実は、今年五月の「ごとう通信」の冒頭の話は昨年末から決めていました。「ついに100キロマラソン完走しました!」と。四月最後に開催されたウルトラマラソン完走のために昨秋から練習を始め、冬のシーズンは絶好調で各レースで自己新記録連

発。ところが、最後の仕上げ期間にあの地震。いろんな環境の変化

で走る意欲も低下。結局キャンセルしてしまいました。

やはり、こういうときは現地で自分の体を動かし、自分に出来ることをしっかりとやることだと思い、ゴールデンウィーク中には被災地に行きます。

マラソンの大会は今後ともあるのですから、今しかできないこと、自分出来ることをしっかりとやってから楽しく走りたいと思います。と言うことで、「ついに100キロマラソン完走しました!」というタイトルはいつの日かの「ごとう通信」の冒頭に



出ます。もう少しお待ちください。

さて、先日、書道家の武田双雲氏（大河ドラマの天地人の題字などを書いた方）がテレビに出ていました。書に対する気持ちってそこまで...と思ってしまうました。その中で、筆だけでなく紙に思いを強くされていることが驚きでした。もちろん紙質によつて文字表現は違うのですが、それ以上の「優しさ」のようなものを感じました。

日本には武道や書道、茶道、そして華道など「道」が多くあります。僕も六歳から剣道をやっていました。この「道」っていう言葉が「相手を思いやる心」かなあと思いました。禁止事項ではありませんが、武道はガッツポーズ御法度だったりします。勝負の中で相手のことを思いやるのが武道です。小さい頃、師範からよく言わ